

第83期 中間株主通信

平成24年4月1日から平成24年9月30日まで



Produce
The Future



株式会社 GSIクレオス

株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当社は、第83期中間期（平成24年4月1日から平成24年9月30日まで）の営業を終了いたしましたので、ここに営業の概況と決算のご報告を申し上げます。

株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月

取締役社長 深瀬佳洋



第83期中間期の業績

当中間期におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要等により緩やかな回復の兆しが見受けられたものの、円高の定着やデフレの影響に加え、欧州債務危機に伴う金融不安や中国等の新興国の成長鈍化により、低調に推移しました。

このような状況下、当中間期の業績は、売上高は前年同期比379百万円、0.6%減収の61,453百万円となり、売上総利益は、前年同期比82百万円、1.2%減益の6,575百万円となりました。営業利益は、一般管理費が増加したことから前年同期比262百万円、23.9%減益の835百万円となりましたが、経常利益は、営業外損益が改善しましたので、前年同期比

77百万円、9.3%減益の758百万円となりました。中間純利益は前年同期比64百万円、9.5%減益の618百万円となりました。

第83期中間期業績

売上高	61,453百万円	前年同期比	△ 0.6%
営業利益	835百万円	前年同期比	△ 23.9%
経常利益	758百万円	前年同期比	△ 9.3%
中間純利益	618百万円	前年同期比	△ 9.5%

通期の見通し

下半期の経営環境につきましては、世界経済の減速が懸念されるとともに、円高やデフレの長期化に加え、近隣諸国との外交問題が経済に悪影響を及ぼすことが危惧されるなど、さらに厳しい状況が続くものと思われまます。

こうした状況下、当社グループは、収益性の向上と海外売上高の拡大を重点施策として、引き続き、強みの発揮できる事業分野への経営資源の配分を進め、収益基盤の強化と財務体質の改善に取り組んでまいります。

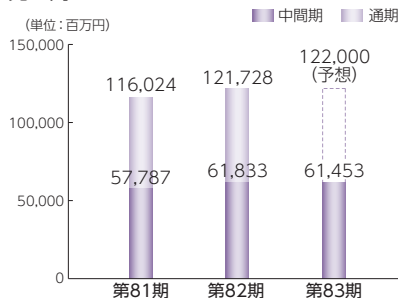
なお、ナノテクノロジー事業は、共同開発による高性能塗料が新たな用途に採用されるなど、今後の進展が見込まれる塗料分野に加え、複合材料、燃料電池の3分野で、早期の収益化に向け、事業パートナーとともに事業化を加速してまいります。

第83期通期見通し

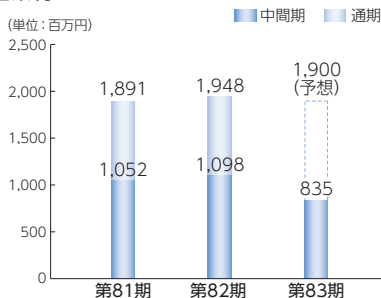
売上高	122,000百万円
営業利益	1,900百万円
経常利益	1,600百万円
当期純利益	1,100百万円

業績の推移(連結)

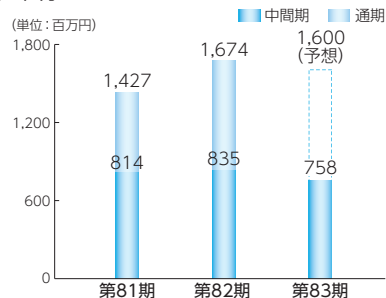
売上高



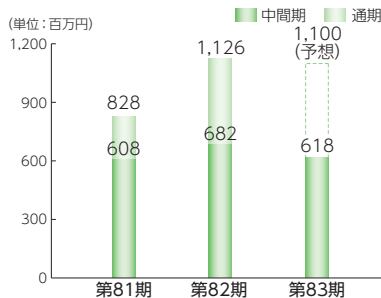
営業利益



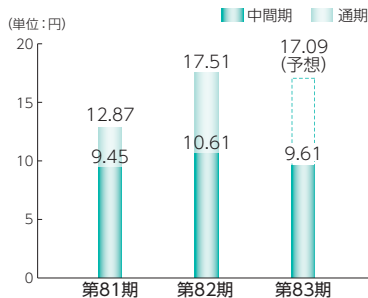
経常利益



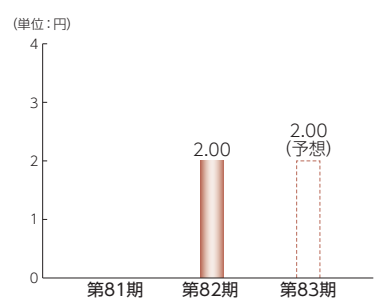
当期純利益



1株当たり当期純利益



配当金



セグメント別概況(連結)

繊維事業

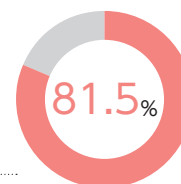


主要商品：

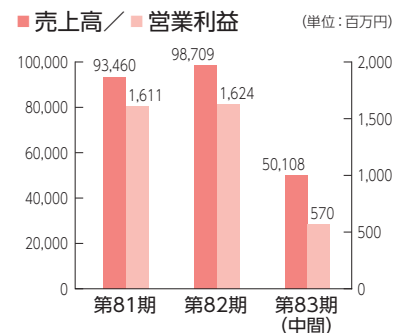
繊維原料、テキスタイル、
レッグ・インナー・
アウターウェア 他

売上高	50,108百万円	
	前年同期比	0.1%
営業利益	570百万円	
	前年同期比	△ 40.9%

売上構成比



- 機能性の高いインナー用の原糸および生地取引は伸長しましたが、競争激化により利益幅が縮小しました。その他の合繊糸やインナー用生地も低調に推移しました。また、企画提案型の婦人ファンデーションは前年並となりましたが、実用衣料は、紳士肌着が量販店向けを中心に大きく落ち込むなど苦戦を強いられました。インナーウェアならびに雑貨の小売展開は、店舗関連経費が先行しました。
- アウター用の生地輸出は、円高の影響を受けて韓国や中国向けが減少しました。一方、OEM取引は、レディースやアウトドア向けが堅調に推移しました。また、婦人アパレル事業は、残暑の影響を受けて苦戦しました。



工業製品事業

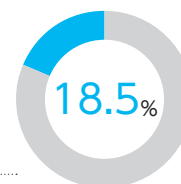


主要商品：

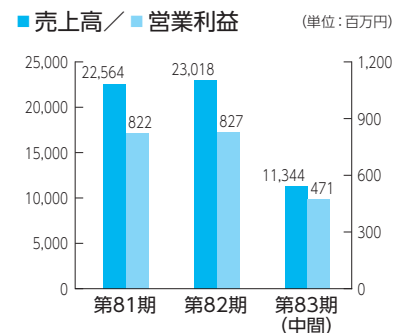
化学品、機械装置・資材、
ホビー・生活関連品 他

売上高	11,344百万円	
	前年同期比	△ 3.8%
営業利益	471百万円	
	前年同期比	22.0%

売上構成比



- 半導体関連機材は、中国製ウエハーなどの部材の取り扱いが増加したものの、装置の取り扱いが減少しました。フィルムは、前年の震災後に増加した食品包装向け需要の反動により減少しましたが、塗料・樹脂の硬化用添加剤や、米国における半導体用途の化学製品の取扱いは堅調に推移しました。
- ホビー関連商品は、プラモデル用塗料が堅調に推移するとともに、他用途に展開している塗装用器具が増加しました。



■ 東南アジアにおける取り組みを強化

当社グループは、「海外事業の拡大」方針のもと「アジアで稼ぐ」をスローガンに、中国のみならず東南アジアにおいても体制の整備を進めており、その一環としてインドネシアのジャカルタに来年1月を目途に現地法人を設立いたします。

インドネシアは、人口2億4千万人を擁し、鉱工業や織物が盛んで新興国の中でも安定的な成長が見込まれていることから、日系企業が多数進出しています。新会社は、これら企業との取り組みと生産背景確保に向けた拠点とするとともに、外資や現地企業へも拡販を図ります。

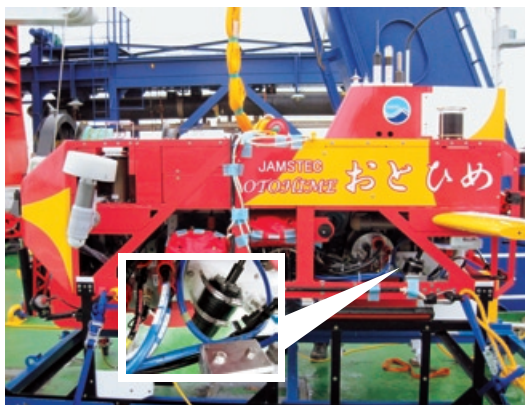
当社グループは、東南アジアにおけるビジネスの深耕に向けて、GSI香港社を司令塔と位置付け、タイ・バンコク、インドネシア・ジャカルタの両拠点を連携させ、繊維原料の調達と加工・縫製拠点を確保するとともに、同地域の旺盛な需要を取り込み、機械や樹脂をはじめとする工業製品事業関連ビジネスの構築にも取り組んでまいります。



■ ナノテクノロジー事業の事業化を加速

当社のカップ積層型カーボンナノチューブ（カルベール®）は、高強度・高弾性や高い導電性等の機能付与に優れた特性を持っています。これらの特性を活かした炭素繊維強化プラスチックは、ゴルフクラブや自転車フレームなどに採用され、また、株式会社竹中製作所と共同開発した高機能塗料は、すでに工業製品用途で使用されています。

高機能塗料については、同社ならびに独立行政法人海洋研究開発機構と新たに共同開発した塗料が、深海探査機「おとひめ」に搭載される測定機器の表面処理材料として使用されることが決定しました。この高機能塗料は、超高压環境下でも優れた耐久性を示し、下地金属種を選ばずに防錆性能を発揮できることから、船舶、海洋観測機器や海域構造物などに広く使用されることが期待されています。



提供:海洋研究開発機構
深海探査機「おとひめ」と新塗料により表面処理された測定機器



「カルベール®」を使用した商品群

連結貸借対照表(要旨)

(単位:百万円)

科 目	当中間期	前期	
	平成24年9月30日現在	平成24年3月31日現在	
資産の部	流動資産	49,033	46,163
	固定資産	11,079	10,931
	有形固定資産	5,470	5,402
	無形固定資産	517	321
	投資その他の資産	5,092	5,207
資産合計	60,112	57,094	
負債の部	流動負債	43,756	40,481
	固定負債	4,458	4,779
負債合計	48,215	45,261	
純資産の部	株主資本	13,614	13,259
	その他の包括利益累計額	△1,766	△1,475
	少数株主持分	48	48
純資産合計	11,897	11,832	
負債純資産合計	60,112	57,094	

連結貸借対照表(要旨)のポイント

資産

売上債権の増加などにより、前期末比で3,018百万円の増加

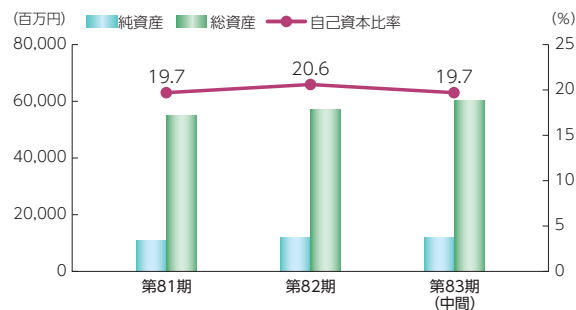
負債

仕入債務の増加などにより、前期末比で2,953百万円の増加

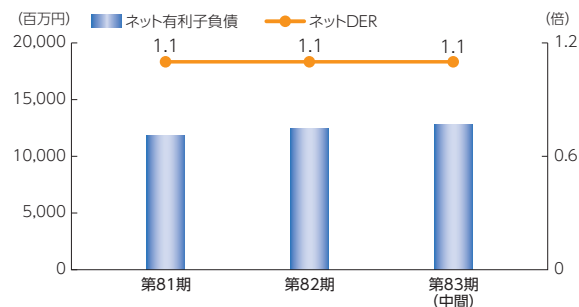
純資産

その他の包括利益累計額の減少などがあったものの、中間純利益による株主資本の増加により、前期末比で64百万円の増加

純資産(百万円)／総資産(百万円)／自己資本比率(%)



ネット有利子負債(百万円)／ネットDER(倍)



当社ホームページ(IR情報ページ)のご案内

当社ホームページのIR情報のページでは、決算短信や有価証券報告書等のIR情報をご覧いただけます。より詳細な情報については、以下のアドレスにアクセスくださいますようお願いいたします。

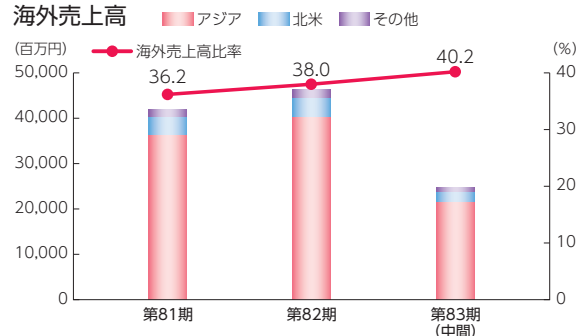
<http://www.gsi.co.jp/ir/>

連結損益計算書(要旨)

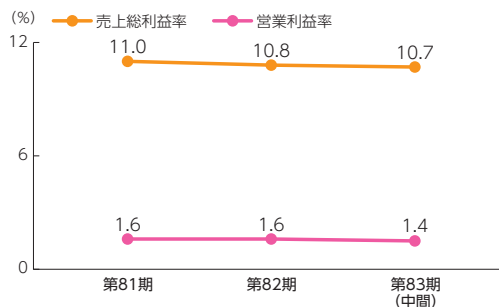
(単位:百万円)

科目	当中間期	前中間期
	平成24年4月1日～ 平成24年9月30日	平成23年4月1日～ 平成23年9月30日
売上高	61,453	61,833
売上原価	54,877	55,174
売上総利益	6,575	6,658
販売費及び一般管理費	5,739	5,559
営業利益	835	1,098
営業外収益	200	93
営業外費用	278	356
経常利益	758	835
特別利益	19	—
特別損失	0	1
税金等調整前中間純利益	776	834
法人税等合計	157	150
少数株主利益	0	0
中間純利益	618	682

海外売上高



売上総利益率(%) / 営業利益率(%)



連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位:百万円)

科目	当中間期	前中間期
	平成24年4月1日～ 平成24年9月30日	平成23年4月1日～ 平成23年9月30日
営業活動による キャッシュ・フロー	187	△1,021
投資活動による キャッシュ・フロー	△329	△195
財務活動による キャッシュ・フロー	△925	399
現金及び現金同等物の 中間期末残高	7,430	8,606

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)のポイント

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前中間純利益などにより、前年同期比で1,209百万円の収入の増加

投資活動によるキャッシュ・フロー

投資有価証券の取得、貸付けなどにより、前年同期比で134百万円の支出の増加

財務活動によるキャッシュ・フロー

借入金の返済などにより、前年同期比で1,324百万円の支出の増加

会社概要 (平成24年9月30日現在)

会社の概要

会社名	株式会社GSIクレオス		
本社	東京都千代田区九段南二丁目3番1号		
設立	1931年10月31日		
資本金	71億86百万円		
従業員数	579名(連結)		
拠点	国内 8ヶ所	海外	13ヶ所
連結子会社	国内 7社	海外	5社
ホームページ	http://www.gsi.co.jp/		

株式の状況 (平成24年9月30日現在)

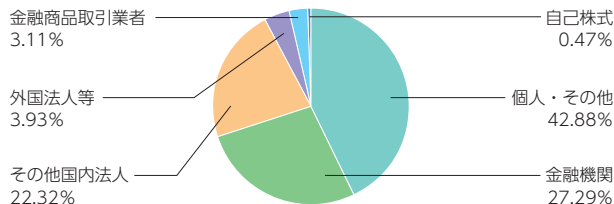
発行可能株式総数	200,000,000株
発行済株式の総数	64,344,379株 (自己株式305,336株を除く)
株主数	6,814名

大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
グンゼ株式会社	9,321	14.49
株式会社みずほ銀行	3,182	4.95
株式会社三菱東京UFJ銀行	3,172	4.93
日本生命保険相互会社	2,586	4.02
東レ株式会社	1,982	3.08
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	1,499	2.33
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,303	2.03
日本興亜損害保険株式会社	1,119	1.74
ステート ストリート バンク アンド トラスト カンパニー 505103	640	0.99
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口1)	484	0.75

(注) 持株比率については、自己株式(305,336株)を控除して算出し、小数点以下第3位を四捨五入して表示しております。

株主構成(所有者別の割合)



役員

代表取締役社長	深瀬 佳洋	取締役	荒木 靖司
代表取締役専務取締役	中島 浩二	取締役	富田 正憲
常務取締役	宮崎 満	取締役	新美 一夫
常務取締役	松下 康彦	常勤監査役	石川 均
常務取締役	吉永 直明	常勤監査役	浅野 幹雄
取締役	田中 正道	社外監査役	岩田 紀治
取締役	中山 正輝	社外監査役	金井 博芳

株主メモ

証券コード	8101
上場証券取引所	東京、大阪
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL: 0120-232-711 (通話料無料)
公告の方法	電子公告 当社のホームページに掲載いたします。 公告掲載アドレス http://www.gsi.co.jp/ir/notice/ (ただし、電子公告によることができない事故その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

(ご注意)

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にてもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

